

3. 修復前後の作品構造

修復前の作品構造として、本紙料紙には肌裏紙・総裏紙の合計2層の裏打ちが施されていた。又、本紙上下部の付け廻し付近の欠失箇所には、過去の修理で施された補修紙が多数見られ、いずれも本紙料紙と肌裏紙との間に確認出来た。

今回の修復では、裏打ち紙と補修紙をすべて除去し、本紙料紙の欠失箇所に新たに補修紙を施した後、本紙料紙と表装紙に肌裏紙・増裏紙の2層の裏打ちを行った。その後、増裏打ちを行った本紙の裏面に折れ伏せ紙を施した。又、本紙と表装紙を付け廻した後、最背層には3層目となる総裏紙を施した。

修復後の作品構造として作品の裏打ちを2層から3層に変更した事により、長期の保存に耐えうる十分な強度を持たせる事が出来た。

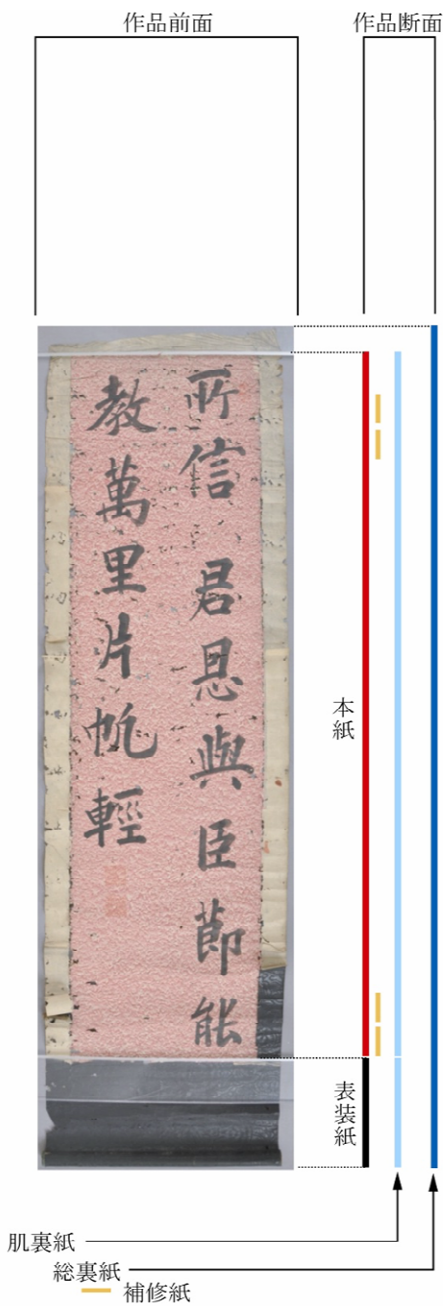


Fig. 40 修復前の作品構造

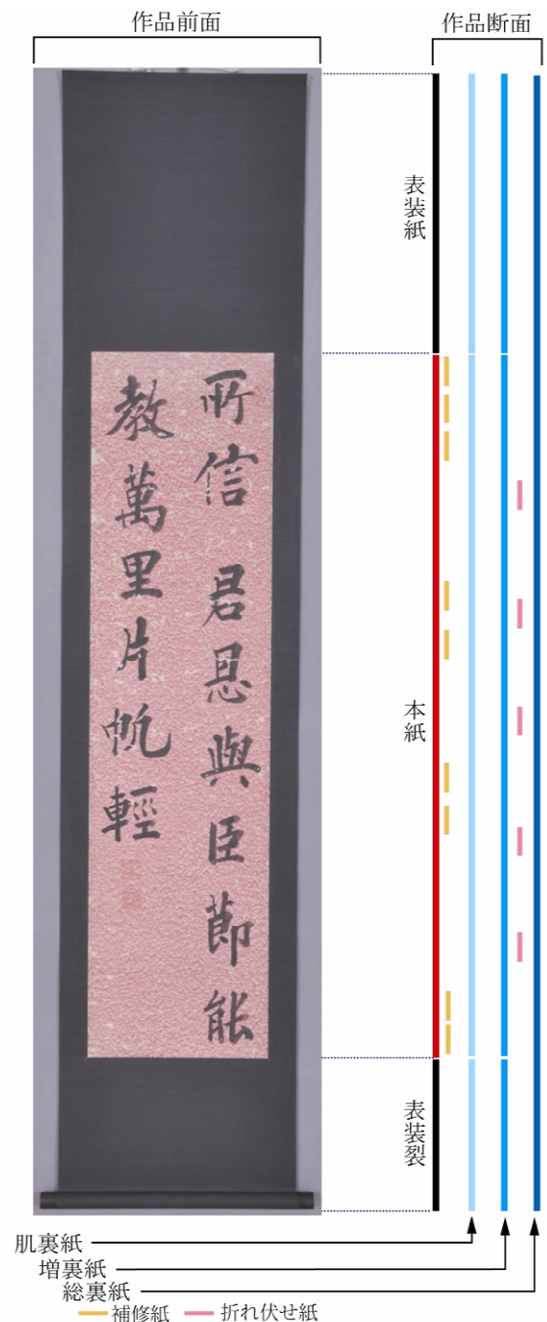


Fig. 41 修復後の作品構造

4. 過去に施された修理について

修復前の作品全体には、虫害による本紙及び表装紙の欠失が多数見られた。特に本紙上部中央付近及び本紙と表装紙の付け廻し箇所には、多くの欠失が生じていた。又、虫害による欠失は本紙料紙から裏打ち紙にまで及び、完全に貫通している箇所が多数見られた。

修復中の調査から過去に修理が行われ、本紙の欠失箇所へ多数の補修紙が施されていたのが確認出来た。補修紙の多くは、本紙上下部の付け廻し付近の欠失箇所に施されていたが、本紙下部中央付近の欠失箇所にも補修紙が確認出来た。これらの補修紙はいずれも本紙料紙と肌裏紙の間に施されており、補修紙のすべてが1辺から3辺を断ち切られていた。

施された補修紙には、本紙料紙と同時に虫害によって欠失した箇所も見られた。更に、補修紙の数は欠失箇所の数と比べ、極めて少なかった。以上の事から、過去の修理後も虫害によって作品は損傷し、本紙料紙が失われていったと考えられる。

又、補修紙には本紙料紙と同様に、赤い斑点状の模様の装飾加工が施されており、紙質に関しても厚みや風合い等に多くの共通点が見られた。この事から、欠失箇所へ施された補修紙は、過去の修理で切り取られた本紙料紙の一部であると考えられ、補修紙として流用された可能性が高い。

修復前、作品に残された表装紙及び裏打ち紙はオリジナルの可能性が高いと考えられていた。しかし、修復中の調査により、本紙料紙裏面に多数の補修紙が確認出来た事から、修復前の装丁材料は、過去に解体を伴った本紙の修理時に施された可能性がより高いと考えられる。



Fig. 42 修復中

本紙料紙の補修地図

青色が本紙料紙の欠失箇所に施された補修紙



Fig. 43 修復中 欠失箇所に施された補修紙

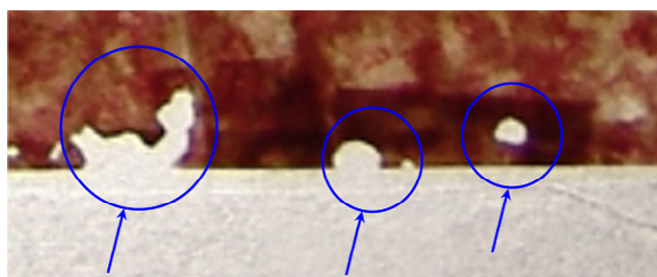


Fig. 44 修復中 本紙と補修紙に共通した形状の欠失

5. 顕微鏡写真

(1)

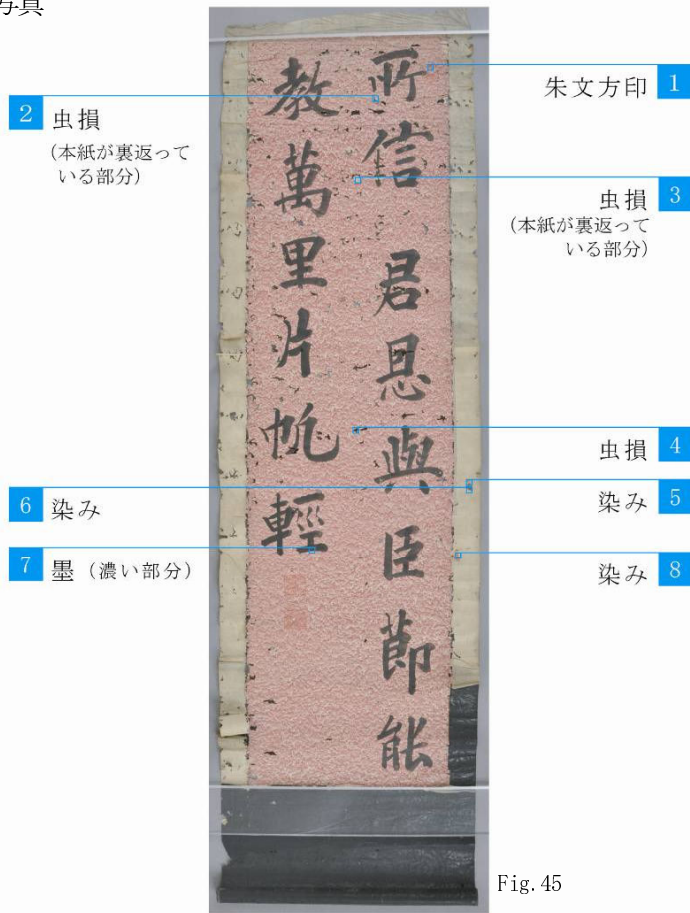
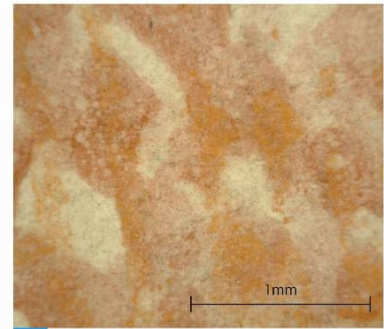
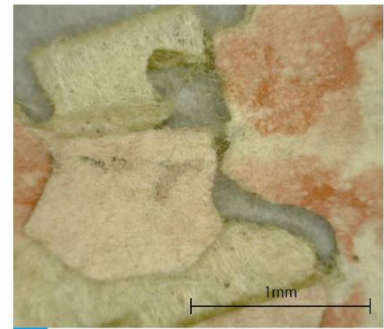


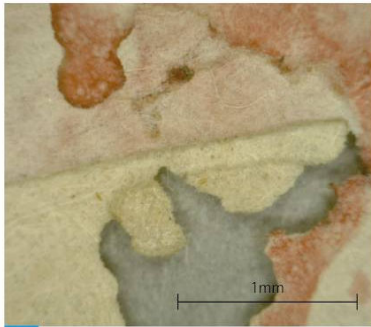
Fig. 45



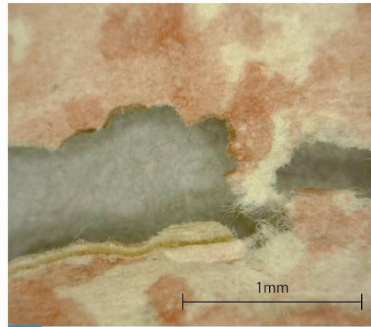
1 朱文方印 Fig. 46



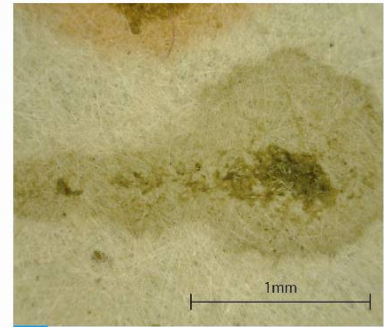
2 虫損
(本紙が裏返っている部分) Fig. 47



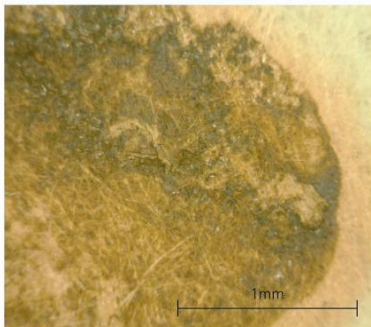
3 虫損
(本紙が裏返っている部分) Fig. 48



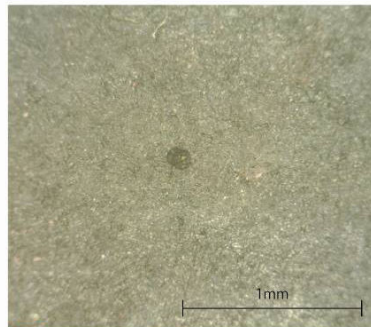
4 虫損 Fig. 49



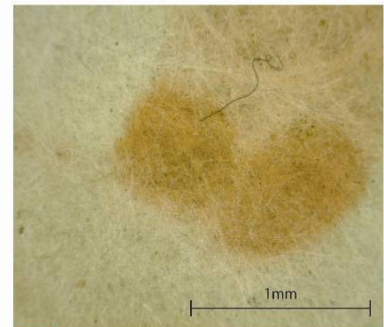
5 染み Fig. 50



6 染み Fig. 51



7 墨 (濃い部分) Fig. 52



8 染み Fig. 53

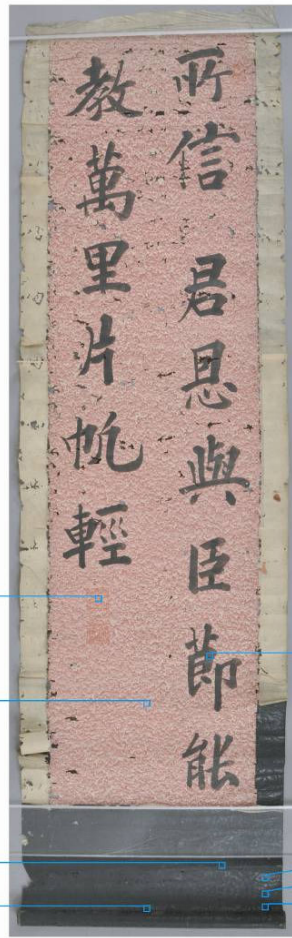


Fig. 54

9 朱文方印

11 本紙

12 表装

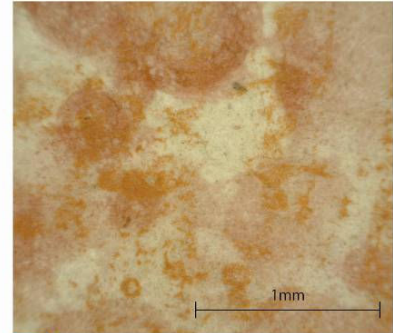
15 白い汚れ

墨 (薄い部分) 10

光沢のある部分 13

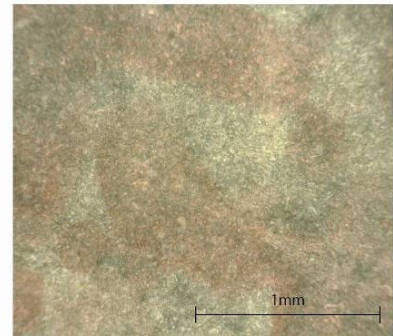
表装 14

光沢のない部分 16



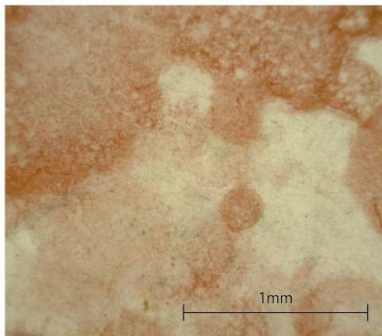
9 朱文方印

Fig. 55



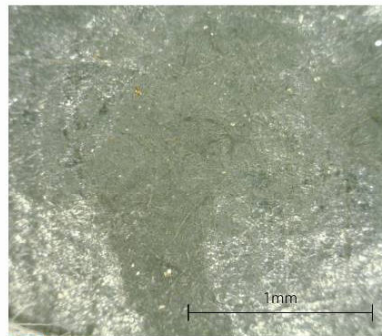
10 墨 (薄い部分)

Fig. 56



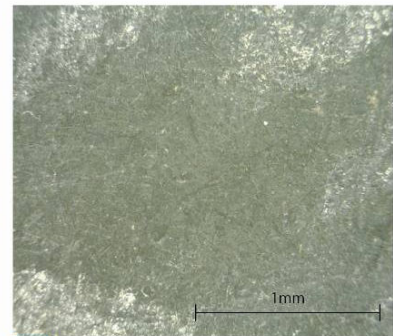
11 本紙

Fig. 57



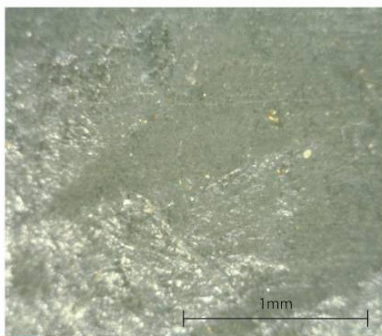
12 表装

Fig. 58



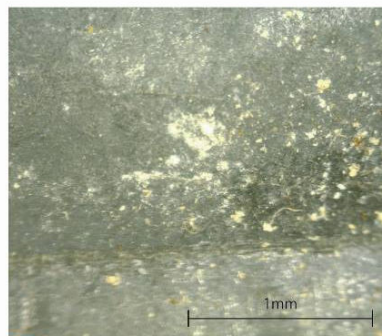
13 光沢のある部分

Fig. 59



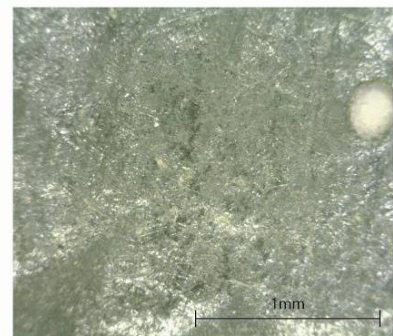
14 表装

Fig. 60



15 白い汚れ

Fig. 61



16 光沢のない部分

Fig. 62

6. 赤外線写真及び紫外線蛍光写真

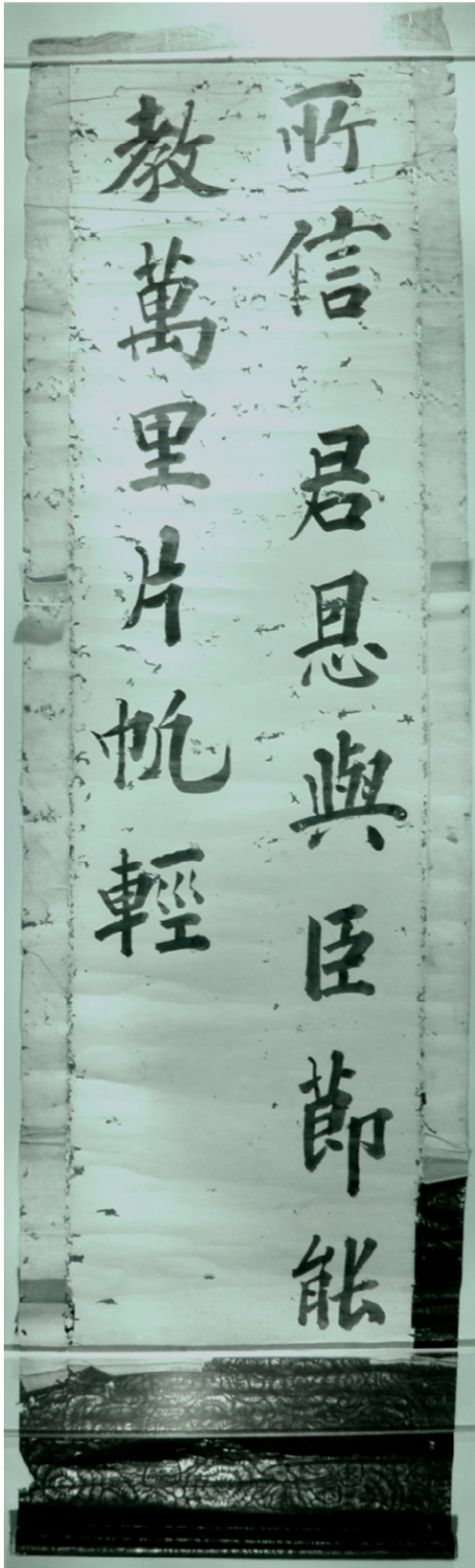


Fig. 63 修復前 赤外線写真



Fig. 64 修復前 紫外線蛍光写真

VI. 使用諸資材及びその他

1. 水 〈濾過水〉（濾過水器 オルガノ株式会社 PF カーボンカートリッジ、マイクロポーシリーズ N タイプ）

〈イオン交換水〉（濾過水器 オルガノ株式会社 カートリッジ純水機 G-10C 形）

濾過水・イオン交換水は、水道水（京都市水道局）を元水としフィルターで濾過した物を使用した。イオン交換水で作製した溶液は可能な限り純粋な溶液であり、反応も調節し易いため使用した。また通常の作業では水道水に含まれる塩素・鉄等の不純物を除去する事により、作品に悪影響を残さない濾過水を使用した。

2. 小麦粉澱粉（中村糊店 京都府京都市下京区富小路五条下がる）

〈新糊〉

新糊はグルテンを除去した小麦粉の澱粉質を原材料に使用し作成した。水 3 : 小麦粉澱粉 1 の割合で約 30 分煮溶かした物を元糊とし、各作業に応じた希釈率で使用した。



Fig. 65 新糊

〈古糊〉

古糊は伝統的に増裏・総裏紙の接着に用いられてきた。新糊を複数年寝かせることにより、発生する黴や微生物によって醗酵が進み、古糊が出来上がる。古糊は接着力が弱い。それを補う工程として、「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し、裏打ち紙と料紙の微弱な接着力を補う作業を必要とする。



Fig. 66 古糊

3. 布海苔（えびす屋 京都府京都市中京区烏丸恵比寿川西入り）

4. 楮紙 〈楮紙〉

- ①薄美濃紙-長谷川和紙工房（岐阜県美濃市蕨生 1942-1）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用し手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。肌裏紙に使用。

- ②美栖紙-昆布尊男（奈良県吉野郡吉野町大字窪垣内）

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、胡粉(炭酸カルシウム)や白土を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用した。増裏紙に使用。

③宇陀紙-福西弘行（奈良県吉野郡吉野町大字窪垣内）選定保存技術保持者

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、地元産の白土を添加する表具用手漉き和紙。白色度が強く、柔軟性があり、古糊と合わせて使用した。総裏紙に使用。

5. 補彩用画材 〈棒絵具〉(放光堂 京都府京都市上京区烏丸二条下る西側)
6. 八双・軸木 (速水商店 京都府京都市中京区富小路三条上る)
7. 保存箱 〈桐太巻添軸桐印籠箱〉(福井工房製 京都府京都市北区大北山原谷乾町)

IX. 修復写真

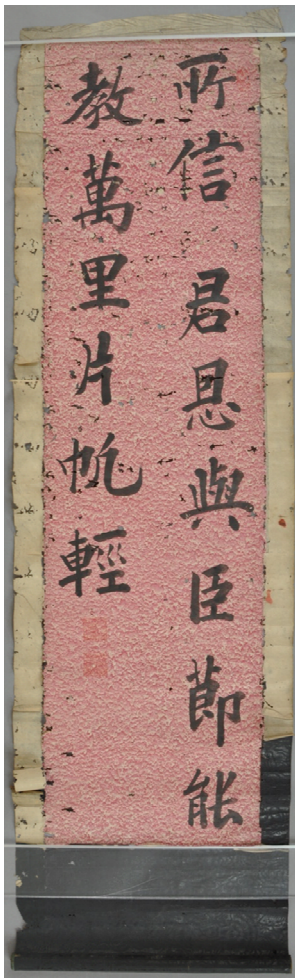


Fig. 67 修復前 作品全図

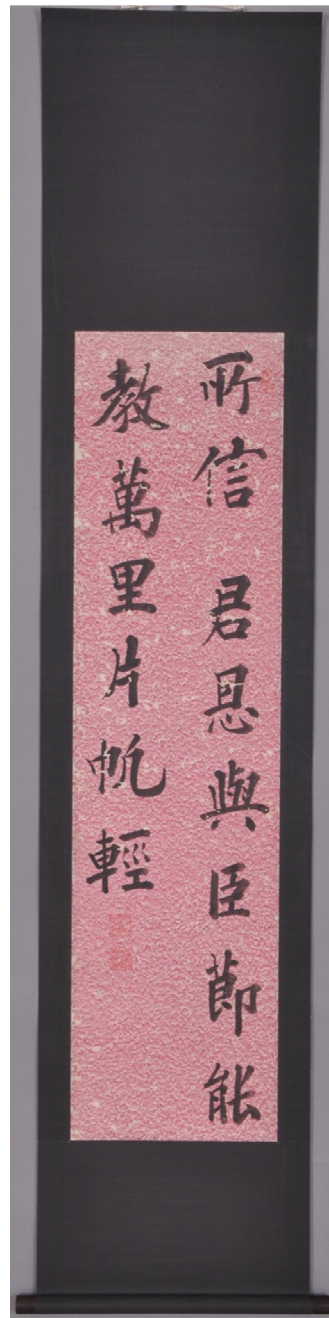


Fig. 68 修復後 作品全図



Fig. 69 修復前 作品全圖 斜光線写真



Fig. 70 修復後 作品全圖 斜光線写真



Fig. 71 修復後 作品裏面全図



Fig. 72 修復後 作品裏面全図 斜光線写真



Fig. 73 修復前
本紙右上部
本紙の欠失箇所

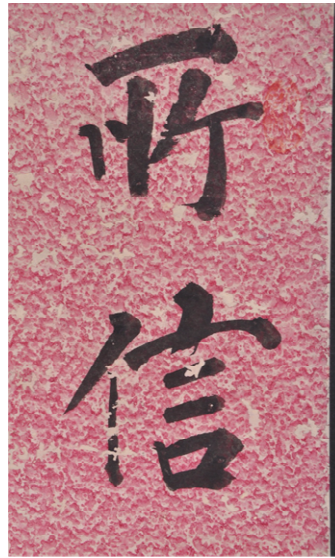


Fig. 74 修復後
本紙右上部
本紙の欠失箇所



Fig. 75 修復前
本紙左上部
本紙の欠失箇所

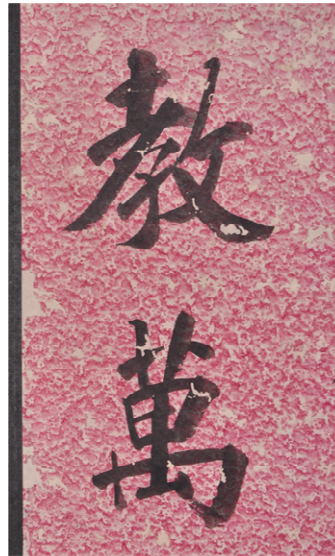


Fig. 76 修復後
本紙左上部
本紙の欠失箇所



Fig. 77 修復前
本紙中央左部
本紙の欠失箇所



Fig. 78 修復後
本紙中央左部
本紙の欠失箇所



Fig. 79 修復前
本紙右上部
白文円印



Fig. 80 修復後
本紙右上部
白文円印



Fig. 81 修復前
本紙左下部 印章
朱文方印



Fig. 82 修復後
本紙左下部 印章
朱文方印



Fig. 83 修復前 軸裂

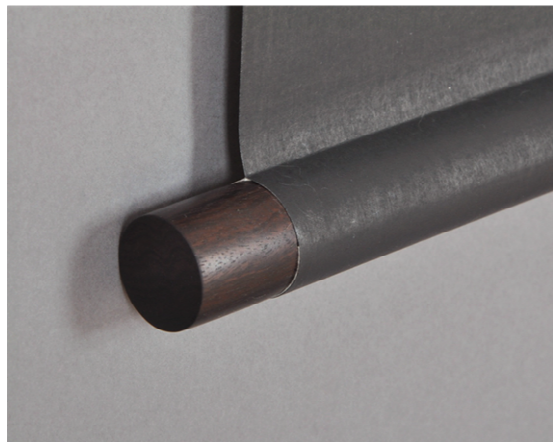


Fig. 84 修復後 新調した軸

